



3. 第1回検討会の意見に関する報告

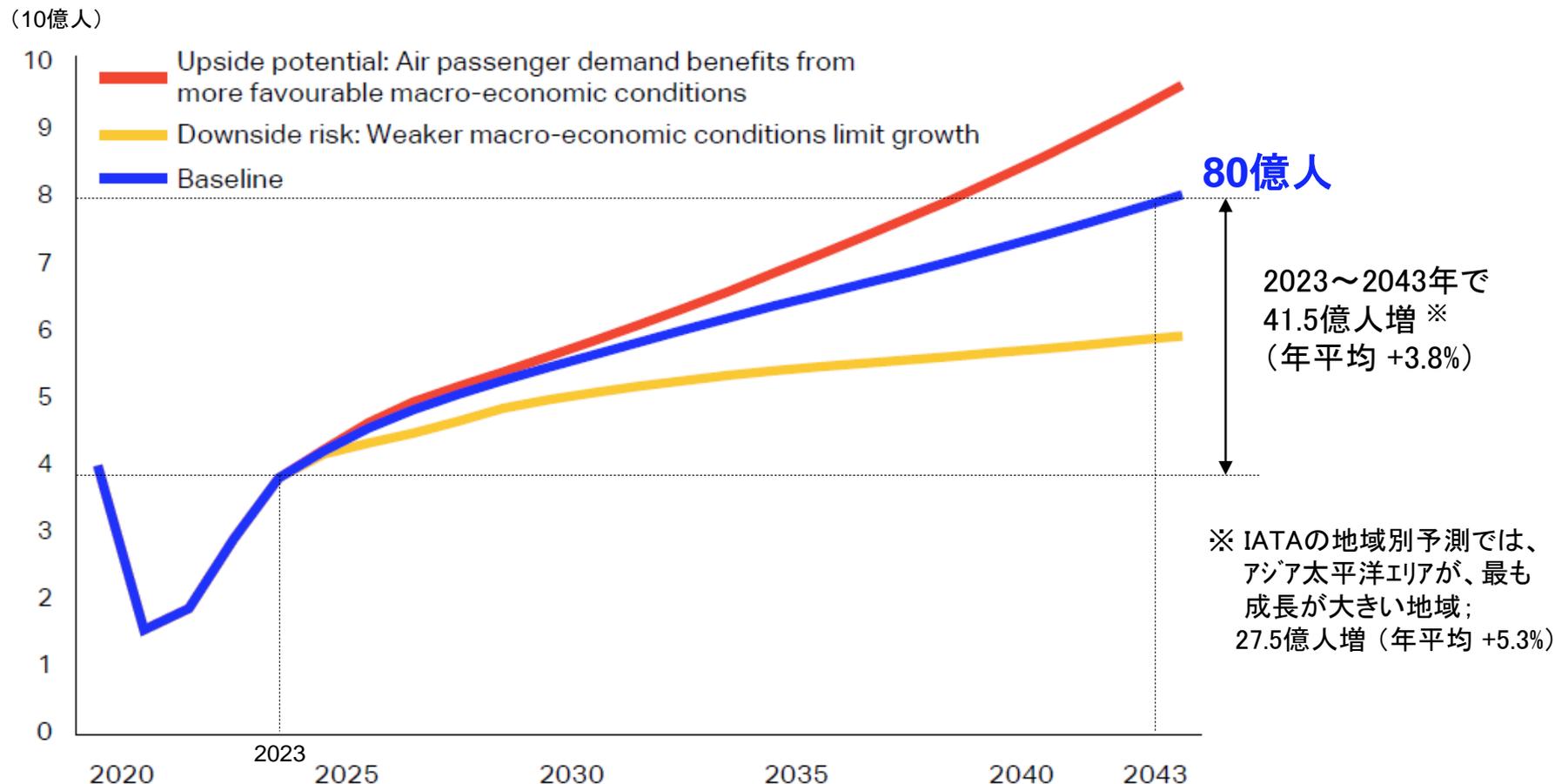


令和6年11月6日
茨城県営業戦略部空港対策課
茨城空港利用促進等協議会

1. 世界の航空旅客需要の見通し

- 2043年の世界航空旅客数は、約80億人まで増加する予測。

(国際航空運送協会(IATA)より)



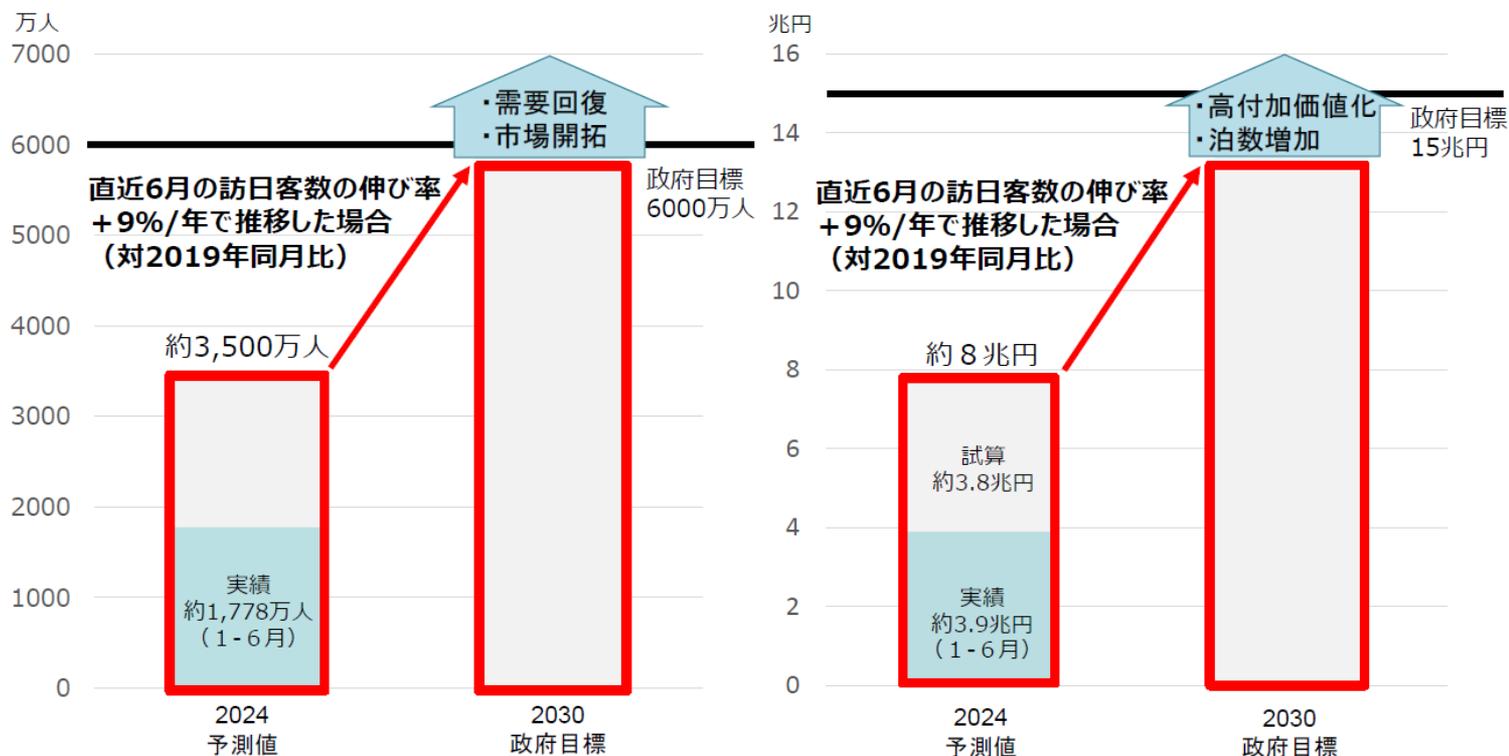
※ IATAの地域別予測では、アジア太平洋エリアが、最も成長が大きい地域；27.5億人増（年平均 +5.3%）

第1回検討会の意見に関する報告

2. 日本の観光戦略

○ 訪日外国人旅行者数 6,000万人・消費額 15兆円を、2030年政府目標に設定。

- ・旅行者数：直近の伸び率で推移すれば、目標達成も視野に入る状況。
- ・消費額：直近の伸び率で推移し、さらに高付加価値化と泊数増加を図ることにより、目標達成も視野に入る状況。



3. 日本の貨物運送における課題

- 現在、「物流の2024年問題」に直面しており、何も対策をしなかった場合、トラックの輸送能力が不足することが懸念
- 解決に向けた対策の1つは、鉄道や内航へのモーダルシフト推進であり、主要な手段ではないが、航空貨物も代替輸送の1つ

物流需給ギャップの推計（国土交通省「持続可能な物流の実現に向けた検討会」報告値）



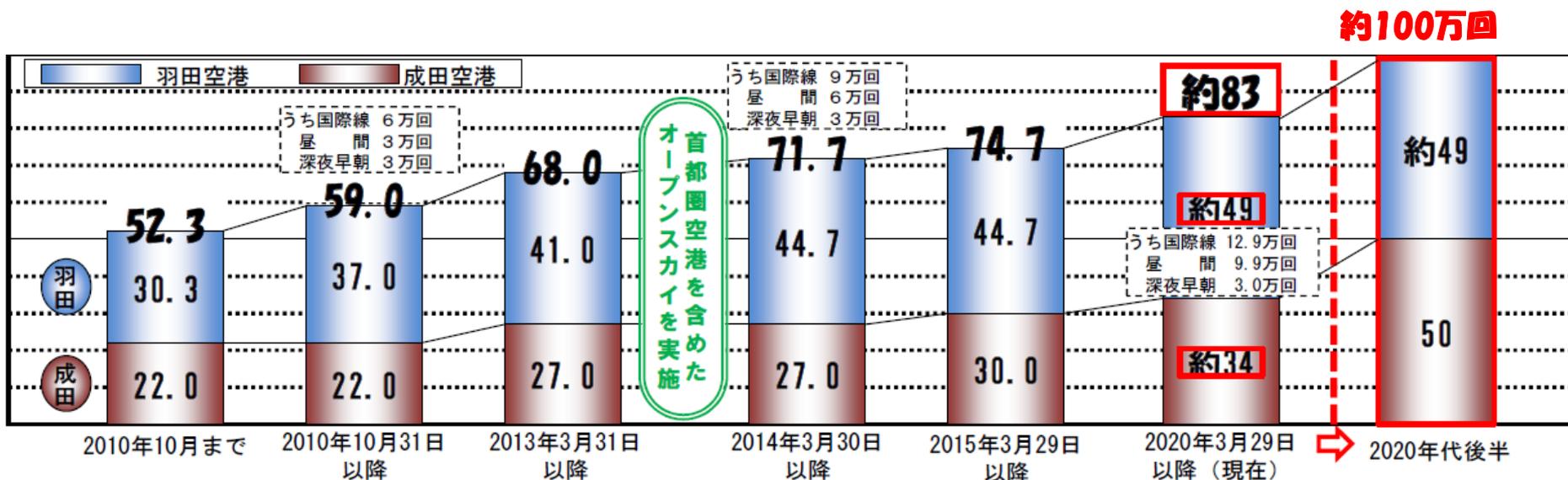
(出典：全日本トラック協会HPより)

第1回検討会の意見に関する報告

4. 周辺空港の動向

○ 羽田・成田の発着枠は、2020年代後半までに年間約100万回まで拡大

※ 2020年度～：約 83万回/年（1日約2,270回）
→ 2029年度～：約100万回/年（1日約2,740回）【+1日約470回】



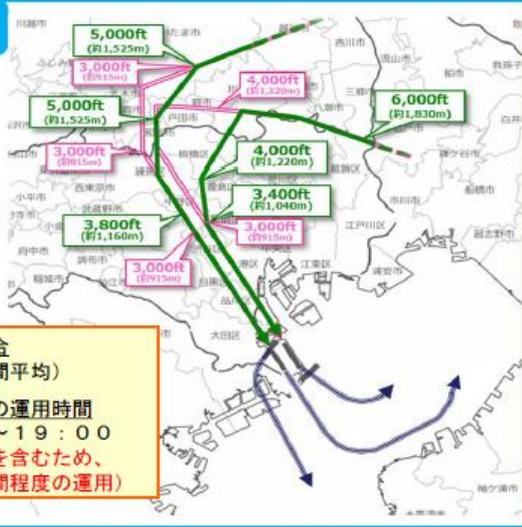
(国土交通省 令和6年6月「第4回羽田発着枠配分基準検討小委員会」参考資料より)

4. 周辺空港の動向

○ 発着枠拡大に向けて、羽田、成田ともに、空港機能を強化

羽田空港機能強化

2020年3月29日から新飛行経路の運用を開始し、**国際線の年間発着容量を約4万回拡大。**



南風運用の割合
約4割（年間平均）
南風時新経路の運用時間
15:00~19:00
(切替時間を含むため、
実質3時間程度の運用)

成田空港機能強化

2028年度末目途の完成に向け、**C滑走路の新設等**の機能強化を進める。これにより、**年間発着容量50万回化を実現。**



(国土交通省 令和6年6月「第4回羽田発着枠配分基準検討小委員会」参考資料より)